

## Testing Laboratory NEWS

TL No.3 2011.2

## 再試験状況のご紹介

## 1 はじめに

昨年末に試験所ニュース No.2 を久しぶりに発行させて頂きました。今後は年 4 回、4 半期毎に試験所ニュースを発行して行きたいと思っております。今回の試験所ニュースでは、お客様に少しでも役立つ情報を提供したいと思い、「標準箔の試験ポイント」と「標準箔の再試験間隔の調査結果」をご報告します。お客様が標準箔試験をご用命くださる際の参考になれば幸いです。

## 2 標準箔の試験ポイント

試験所は標準箔の再試験を受注する前に標準箔の外観試験を行ないます。標準箔の表面状態が良くないと正確な試験を行なうことはできません。そこで、試験員は標準箔が試験できる状態であるか否かを目視判定します。試験員が行なう外観試験項目を表 1 に示します。この外観試験に合格した標準箔のみが試験対象品となります。

表 1 標準箔の外観検査表

	[全面 $\phi$ ]
	① 破損がない ② 箔の剥離がない
	[ $\phi$ 3mm 範囲内]
	① 破れがない
	[ $\phi$ 1mm 範囲内]
	① ピンホールがない ② 打痕がない
<b>【用語の定義】</b> ピンホール：直径 0.5mm 以下の貫通穴 破れ：長さ 1mm 未満の亀裂 破損：長さ 1mm 以上の亀裂 打痕：貫通していない凹み 皺：貫通していない周期的な凹凸 傷：その他の貫通していない変形	
	③ 皺がない
	④ 傷がない
	⑤ 変色がない

試験員は試験依頼を受注した後に SFT3200S 又は SEA5120 を使用し、標準箔の種類ごとに定められた測定条件で標準箔を試験します。標準箔上の試験ポイントは、黒点やケガキ線を用いて箔の中心に設定します。使用するコリメータ径は 0.3 mm です。従って、試験報告書に記載される試験値は直径 0.3mm の円内の平均値です。

### 3 標準箔の再試験間隔の調査結果

弊社は標準箔の寿命や試験値の有効期間を設定していません。従って、再試験のインターバルはお客様自身の判断によります。しかし、標準箔の状態が明瞭に変わった場合を除き、適切な再試験時期を判断するのは容易ではありません。そこで、試験所ではこれまでの全て再試験記録を調査し、実際の再試験のインターバルを調査してみました。以下に調査結果をご報告します。

今回調査対象としたのは、弊社が試験所認定を受けた 2002 年 10 月から 2010 年 11 月までに試験した JAB 認定の試験品目です。お客様が購入後 1 年以上経過した標準箔で弊社が再度試験を行なった割合は 27.2%です。調査した結果の試験インターバルの割合を円グラフで図 1 に示します。

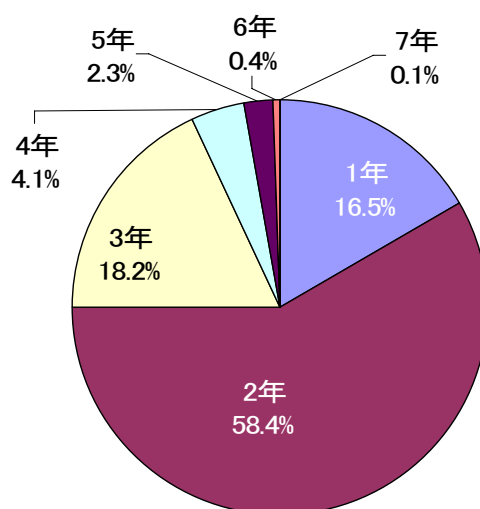


図 1 試験インターバル分布

定期的に再試験を行なっているお客様で、16.5%のお客様は毎年、58.4%のお客様は 2 年ごと、18.2%のお客様は 3 年ごとであり、3 年以内に再試験するお客様は全体の 93.1%です。従って、殆どのお客様の再試験インターバルは 3 年以内を目安としていると思われます。100 枚以上の標準箔を定期的に試験しているお客様もおります。そのようなお客様では 3 年ごとに順次再試験を行なっております。

さて、試験所ではお客様アンケートでも再試験のインターバルなどをご質問しております。アンケートの結果が纏まれば、また視点を変えて再度ご報告します。

以上